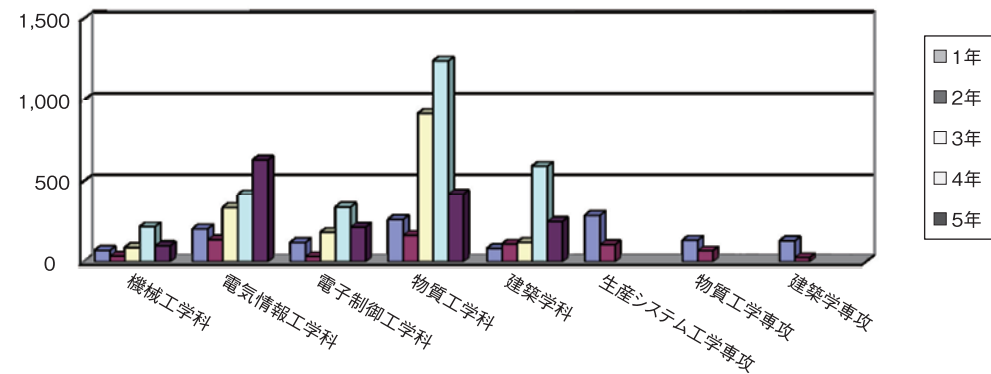


4.平成25年度 学年・学科別貸出冊数

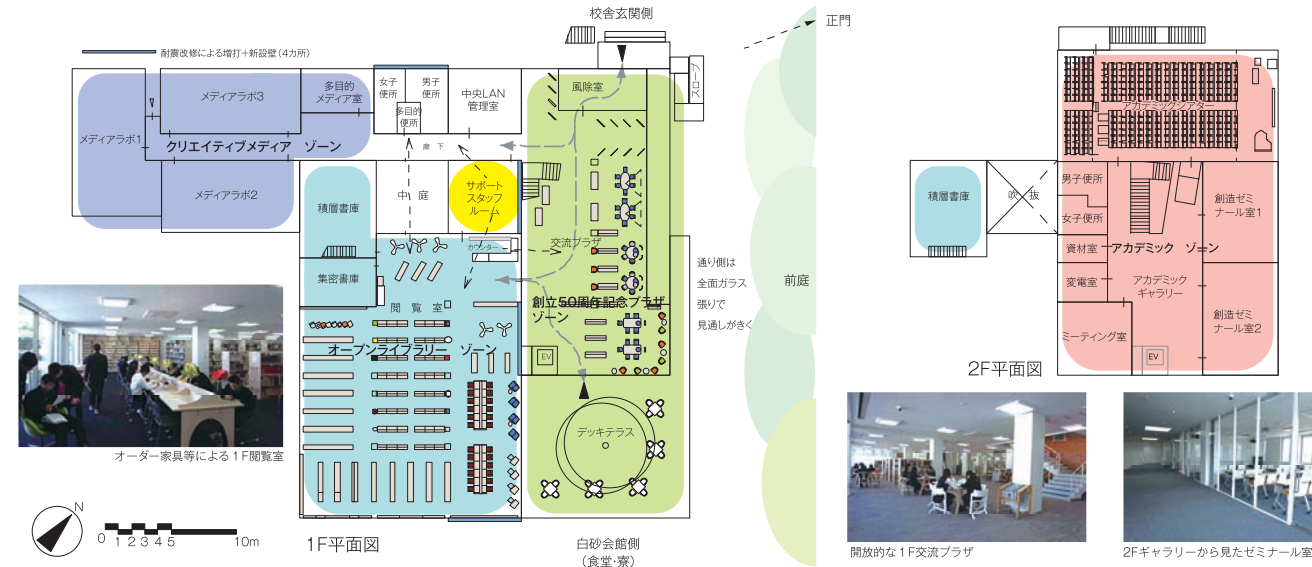
本科・専攻科

学年	本科					専攻科			合計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	生産システム工学専攻	物質工学専攻	建築学専攻	
1年	70	202	118	260	82	285	132	128	1,277
2年	35	135	32	162	109	105	68	26	672
3年	87	333	180	914	119				1,633
4年	215	416	336	1,245	594				2,806
5年	98	633	212	419	247				1,609
合計	505	1,719	878	3,000	1,151	390	200	154	7,997



新図書館情報センター

4つのゾーンに分けて構成しています。1階は活動的な交流プラザゾーン、静かに閲覧できるオープンライブラリーゾーン、情報学習の場であるクリエイティブメディアゾーンです。2階は、学術研究、地域貢献の場であるアカデミックゾーンです。



平成26年度学生図書委員一覧

委員長：建築学科3年 荒田 倅利 副委員長：建築学科5年 田中 優哉

学年	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
1	小松 颯太	川崎 太登	小牧 遼太	松波 誉大	小西 夏美
2	石倉 陸月	平井 悠翔	武中 幹人	濱本 歩	田川 桜
3	恩田 晃匠	足立 奈々美	山根 匡翔	藤山 淳平	荒田 倅利
4	柳田 賢佑	三輪 しおり	赤井 智哉	西田 知央	山田 晃希
5	柴田 夏来	林 豊晃	香川 望	大脇 秀捷	田中 優哉



ISSN 1344 - 5634

第 97 号

平成26年7月24日 発行
米子工業高等専門学校図書館

目次

- 図書館情報センター 記念式典関係1
- 新任教員おめめの本4
- 読書感想文募集について4
- 新任教員座談会「本と私」5
- 文化系クラブ活動・同好会の紹介8
- 図書館統計9
- 新図書館情報センター概略紹介10
- 平成26年度学生図書委員一覧10



写真 左側から松本正己(情報教育センター長)、高橋紀子氏(鳥取県立図書館長)、齊藤正美(校長)、土江一史氏(鳥取県西部総合事務所長代理)、熊谷昌彦(図書館長)

図書館情報センター竣工を記念して特別寄稿



「創造性と読書」

校長 齊藤 正美

私は、米子高専の学生には「実践力と創造性」を身につけてもらいたい、と機会あるごとに話しています。実践力については特に説明を要しないと思いますが、「創造性」または「独創性」とは何でしょうか。ドイツの偉大な哲学者であるゲーテは次のように言っています。「独創性ということがよく言われるが、それは何を意味しているのだろうか。我々が生まれ落ちるとまもなく、世界は我々に影響を与えはじめ、死ぬまでそれが続くのだ。一体我々自身のものと呼ぶことができるようなものが、エネルギーと力と意欲のほかにあるだろうか。」エネルギーと力と意欲とは気力、知識、実践力などのことであり、自らの努力によって培うことができる

ものと言えるでしょう。では、「世界が我々に影響を与えるもの」とは何でしょうか。自然界の深遠さに触れること、優れた人やものと出会うこと、異質なものと出会いなどは我々の思考や感性に大きな影響を及ぼします。また、歴史ある古いもの、優れた古典、先人の偉大な行為などを知ることも私たちに多大な影響を与えます。これらのものに感動したり刺激を受けたりすることは、自己の教養を高め、同時に洞察力を磨くための力ともなります。このような「世界が我々に影響を与えるもの」から得られる何かを真摯に受け止め、気づいた疑問や問題に深い洞察を加え、その結果を素直に受容する、このプロセスが、新しいものを発見し生み出す力となります。そのためには、自分の才能や力を過信することなく、謙虚に不断の学習に励み、積極的に他者や社会と交わり、先人の知恵に学び、そして何よりも失敗を恐れずに実践し行動することが大切です。新しい図書館情報センターはこのようなコンセプトを基にデザインしてあります。学生諸君には、この空間をうまく活用して、自らの成長に役立ててもらえるよう願っています。

〈記念式典と基調講演〉

平成26年4月26日(土)の10時~12時30分に、図書館情報センター竣工式典を行いました。齊藤校長の挨拶、図書館情報センター紹介、リニューアル計画説明、施設見学後、基調講演会「青年前期の読書」(講演者:上田京子氏、鳥取短期大学非常勤講師、元米子市立図書館統括司書)及びシンポジウム「今後の図書館活動について」(パネリスト:小林隆志氏(鳥取県立図書館支援協力課長)、上田京子氏、高増佳子氏、コーディネータ:熊谷昌彦図書館長)、学生討論会が行われました。

〈式典〉

齊藤校長:米子高専50周年記念事業にあたり、図書館情報センターのリニューアルを行いました。高専の学生に、将来、創造的力をもった人材になっていただくために、専門的知識はもとより、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、倫理力そして社会人としての広い視野を学んでいただきたいと思います。本図書館は、古来の知識や経験そして思想が詰まっている本を提供するばかりでなく、人と人の出会いの場を提供しています。すなわち、文化活動の拠点としての機能をめざしています。また、卒業生のご尊父である画家の田村憲二様より、本館に絵を寄贈いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

高増先生(新図書館情報センターの紹介)



まず、図書館情報センターをつくりあげるには、多くの人の手が加わっていることを申し上げます。平成22年頃から、改修計画の基本構想が細田先生を中心に建築学科で行われ、その後学生提案もふまえて高増がデザイン監修等を行い、平成24年度に完成しました。以前の図書館は、正面玄関にはいるとロビーでしたが、薄暗く、人が入りづらい雰囲気でした。新しい図書館は1階がガラス張りで、明るく自由に学生が入り出ることができるようになりました。また、将来、交流プラザにデスクスペースができることで、ゆったりとくつろげるカフェテラスとなることも想定しています。さらに、屋外との関係を良好にするために、植栽計画を小椋先生中心にデザインを進めています。



〈基調講演〉

上田京子先生 「青年前期の読書」

今回、青年前期(15~19才)の読書を取りあげました。小中学校では、親による教育そして教師による教育が主体であるのにくらべ、青年前期は、自分自身が自分自身を教育するための期間であり、有効な方法として読書があります。この時期は心の揺れが大きく、精神的な発展を遂げ、人格形成が行われます。読書は本を読むだけでなく、知的空間に身をおくことも、静かな読書教育といってもいいでしょう。本が並んでいる背文字をながめているだけでよい。図書館に足を踏み入れたことがある人は全体の20%程度といわれます。80%の人は図書館を訪れたことがないことになります。

図書館にいった経験のある人は、図書館そのもののイメージを形成できますが、そうでない人はイメージそのものがわかりません。青年前期の学生達に是非、図書館を訪れていただくためには、図書館の垣根が低いことも必要です。

読書は、日常生活のおりおりの状況判断を考える力を身につけます。言葉を組み立ててイメージをつくります。考えるには語彙が豊かでなければなりません。語彙の量は読書の量に比例します。コミュニケーション力は、自分に教養的知識と人間力をもっていることで養われます。是非、自分自身を育てるために図書館に出向き、読書をしていただきたいと思います。

シンポジウム 「今後の図書館活動について」

熊谷図書館長:図書館の今後の活動について、講演者の上田京子さん、設計の立場から高増佳子さん、そして図書館の活用の視点から、鳥取県立図書館支援協力課長の小林さんにお尋ねします。



小林:すばらしい図書館ができましたね。平成15年から図書館に勤めていた経験をお話します。実は、大人になるまで

図書館は利用していませんでした。平成9年~11年に、鳥取県立図書館にいて、こんなにすごい世界があったんだ、まさにワンダーランド。図書館は機能をいかに生かすかですね。様々な図書館機能を使って、世界に飛び出していきたい。

高増:ガラス越しに図書館の中がみえる。図書館内で学生が話をしたり、勉強していることに興味をもって、外側から眺めているうちに中にはいってみようかという活動を誘発する。なにげない交流を通して、新しい使い方を学生が考えるとよいと思います。

上田:未来の図書館って、利用されてこそその図書館です。読書をするための静かな空間も必要ですが、図書館に行ったことがない人を引き込む工夫が要求される時代です。私は、読書会を通じて、学校とは別の自分が成長する機会を得たと思います。そこでは、1冊の本を仲立ちにして、色んな人と話すことで、思いがけないアイデアに出会うことができます。横のつながりをもつことができ、より幅広い自分を育てていくことができました。

高増:新しい図書館の提案から完成まで、建築学科の学生を含め、教職員、非常勤の先生やOBやOG等多くの方々の支援がありました。多くの方々の思いが詰まっています。使っていく中で、様々なコラボレーションの機会が増えると思います。

小林:図書館を使い倒すことを真剣に考えてください。図書館にない本は、インターネットを通じて他の図書館の本を使う。使いたい本を事務にリクエストする。現在、読書環境は様々なネットワークで支えられています。図書館は利用者によって育てられている。自分が読みたい本を図書館に伝えることは



(シンポジウム)

大切です。職員を育ててください。司書は初めから図書館や本に詳しいわけではありません。リクエストにこたえるために勉強をして、育まれていきます。先生方や学生で、司書を育ててください。

熊谷:最後に一言お願いします。

高増:今回の図書館のコンセプトは「どこでも本が読める創造空間」です。本を読んでも、インターネット等を使用してもよいので、是非、図書館を使い倒していただければと思います。

小林:図書館の使い方を知ることは、生きる力を得ることであると思います。社会は大きく変化しています。就職しても途中で、転職をしなければならぬことがあるかも知れません。また、同じ会社の中でも違う部署に変わることもあるかも知れません。このように急激な変化に対応しなければならぬとき、図書館を使うことを覚えておいて欲しいと思います。

上田:「ゲーテとの対話」を読んでいます。ゲーテは「建築とは凍れる音楽」とよびます。建築は音楽の美しさを目にみえるかたちにして、永遠にとどめることができます。新しい図書館で、読書の素晴らしさが味わえることを期待しています。

この後、1階の交流プラザで、図書館の使い方について、学生討論会をパネリストと共に、学生から活発な質問がでて盛況に終了いたしました。なお、文化活動系クラブ・同好会の展示を図書館2階で開催しました。式典、シンポジウム、学生討論会、クラブ・同好会の展示にあたり、文芸部、放送部、茶華道部、建築学科2年有志等の協力を得ました。



(学生討論会)

『学校の勉強だけではメシは食えない！
世界一の職人が教える「世渡り力」
「仕事」「成功」の発想』

岡野 雅行 著 機械工学科 藤田 剛

著者である岡野雅行さんは、今となっては有名な痛くない注射器の生みの親であり、その他、従来の技術では不可能とされた金属加工を実現されてきた方です。米子高専にもご存知の方が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。本の中にも書かれています、昨今では世の中を生きていくための知恵を年長者から教えていただける機会は少なくなっており、一方で機会はあっても消極的になってしまう方も多いのではと感じます。その中で、この本では若者の人生における様々な疑問、質問に対する、人生経験豊富な岡野さんによる意見が一問一答形式で書かれています。私は活字を速く読める方ではないのですが、ものづくりをされている方が書かれた本ということもあってか、時間をかけずに完読できた記憶があります。その点、普段、あまり本を読まない人にもお勧めです。学生の皆さんは将来の自分を考える大事なこの時期に、このような本を読んでみてはいかがでしょうか。

『ロボットとは何か一人の心を映す鏡』

石黒 浩 著 講談社 電子制御工学科 原田 篤

著者は大阪大学において、人間酷似型ロボットの開発・研究を行われている有名な先生であり、愛知万博

に出展されたアクトロイドや自身のコピーロボットであるジェミノイドなどを開発されているアンドロイド研究の第一人者である。

「人に心はなく、人は互いに心を持っていると信じているだけである」

本書の冒頭に出てくる言葉であり、哲学的な言葉でもある。これは、自分の心の動きよりも他人の感情の発露を見ているほうが、「心の存在」を感じることができるという観点からの言葉であり、このことが「ロボットも心を持つことができる」と著者が考える理由でもある。そして、私自身もそうなのだが、ロボットの研究をすることは「人間を理解する」ということを目標としている。この人間という言葉には人と人との繋がりをも含めた社会性という意味も持っており、ロボットに知能や心を持たせるには人とのコミュニケーションが必要となってくる。そして、ロボットが社会に出てくると人は自分の心をより理解していくことになるだろう。

『恋する伊勢物語』

俵 万智 著 ちくま文庫 教養教育科 長福 香菜

『伊勢物語』は現存する最古の歌物語であり、約125の章段から構成されます。在原業平が主人公とされ、恋の話が章段の多くを占めています。高校の教科書には必ずと言っていいほど『伊勢物語』は収録されていますが、限られた授業時間の中では、古語や文法の難しさに抵抗を感じたまま内容を読み味わうまでに至らない場合が多々あります。その現状に対し、元高校教師

であり、歌人の著者が「古典の楽しさ」を伝えたいとの思いで著したのが本書であり、54の章段を取めます。

現在のように携帯電話やメールがなかった時代、和歌はコミュニケーションの手段でした。昔も今も人が人を思う気持ちは変わりません。和歌の現代語訳や時代背景の解説と併せて、たった三十一文字に恋する気持ちを託した昔の人々の思いに心を寄せてみてください。さらに、著者が読み取った行間の解釈がより深い『伊勢物語』の世界へと誘ってくれます。きっと今まで以上に古典をより身近なものに感じられるはず。興味を覚えたら、ぜひ本文にも触れ、古語の美しさ、表現の奥深さを味わってほしいと思います。

『わたしを離さないで』

カズオ・イシグロ著、土屋政雄訳 早川書房 教養教育科 早水 英美

生命倫理の面から議論的となっている「遺伝子組み換え」や「クローン」をテーマとした文学作品は数多くありますが、「遺伝子組み換え人間」や「クローン人間」と聞くと、大部分の作品が(近)未来を舞台としているため、まだ身近では起こり得ない非現実的なものとして捉えてしまうのではないのでしょうか。本作品もこういった

テーマを扱っていますが、1970年代～90年代に時代設定されているので、全体的にノスタルジックな雰囲気が漂っています。また主人公キャシーの温かくも淡々とした語りが進む物語は、どこにでもいそうな若者の切ない青春時代の回想記でもあります。そのため、本作品は、現在危惧されている問題が実は身近で起きている(起きていた)かもしれないと、私たちの不安感や危機感をあおります。同時に、人間らしく生きようとする登場人物たちの姿は、私たちの胸を打ちます。読み終えた後、何かが心にずっしりと残る作品です。



左上から原田先生、藤田先生 左下から長福先生、早水先生

新任教員座談会「本と私」

新任教員の中で、機械工学科の藤田剛先生、電子制御工学科の原田篤先生、教養教育科の長福香菜先生に推薦本についてのインタビューと座談会(平成26年5月22日13時～14時、図書館2階創造ゼミナール室)を行いました。司会は図書館長熊谷です。(記録等は5A青山萌、岩本直樹、小泉友希、田中優哉が行った。)

各教員の推薦本について以下のコメントが印象に残りました。



藤田先生：「学校で教えてもらっている勉強だけではなかなか世の中でやっていくことは難しいというようなことが書かれていることに感銘をうけました。」



原田先生：「ロボットを研究するとは何なのか。特に人間型ロボットを研究することは人間を研究することだっていわれます。だから、身体構造を知るには保健体育、コミュニケーションを知るには社会科学等様々な分野を知ることが大切です。」



長福先生：「古を知ることが今を知ることにつながっていきます。古典で、昔の人たちの生き方や考え方、習慣などの時代背景を知ってほしいと思います。」

読書感想文募集

対象：米子高専の学生
執筆期間：夏休み
字数：B4縦書き原稿用紙(400字詰)5枚以内。自筆
締切：10月1日(水)
提出先：各クラス図書委員が集めて担任へ(専攻科生は直接図書館まで)
審査委員：各クラス担任、図書館長、図書館運営委員、国語科教員、その他
表彰：最優秀賞1編、優秀賞3編、佳作5編
賞状および副賞として図書カード～
最優秀賞15,000円相当、優秀賞10,000円相当、佳作5,000円相当
表彰式：11月中(予定)
作品展示：優秀な作品は『としょぶらり』誌に掲載予定

それぞれの紹介文を読んで。

熊谷図書館長：今日はお集りいただきありがとうございます。新任教員の藤田先生、長福先生、原田先生にお集りいただきました。としょぶらりということで、それぞれ1つの本を選んでいただきました。紹介文を読んで、お互い質問はありませんか。

藤田先生：長福先生に。この本は古典の知識がないと楽しめないのでしょうか。

長福先生：いえ、楽しめます。知識がない人にも分かるように書かれている本で、時代背景などもすべて分かりやすく説明されていますので、大丈夫です。ぜひ読んでみてください。

熊谷：和歌でコミュニケーションをとることについても少しお話いただけますでしょうか。

長福：今はメールやラインで、自分の好きな時に好きなだけ相手に想いを伝えることができます。しかし、和歌は決められた字数の中に自分の想いを込めなければいけません。この時代、和歌は基本的な教養であり、相手に想いを伝えるときには、和歌が詠まれていました。和歌が、コミュニケーションの一番の手段だった、ということですね。

本を読むようになるまで。

原田先生：学生時代は読書感想文で本を定期的に買って読んでいたのがありますし、子どもの頃はよく絵本などを読んでいたので、身近に本があったのはやっぱり大きいでしょうね。

長福：高校時代までは本を味わうということがなかったんですが、大学に入ってからそれぞれの分野

の教授のもとで文学作品を読んで、こんな読み方があるんだ、この作品にはこんな背景があるんだということを知った時に読みが深まり、心の底から、ああ面白いなと思いました。心に残っているのは、菊池寛の『形』という短編小説で、彼はその作品を書いた時に、「中味も大事だが形も大事」ということを言っていたらしいんです。やはりこのような本を読むと、非常に人間の人間らしいところを感じますね。

藤田：堀江謙一さんの『太平洋ひとりぼっち』などの本を読んで、その本に引用されているような文献をたどるような形で、そういったジャンルのものを読むようになりました。

熊谷：堀江謙一さんなどの冒険家の方々の本を読んで面白かったのはどういうところですか。

藤田：はい。まず本を読んでいるときは、その世界に自分自身が引き込まれるようなかたちで、次へと読み進めたいという気持ちが出てきました。そういった本を読むことで、自分も何かすれば出来るのではないかという気持ちにさせてもらったという記憶があります。

若者の活字離れについて。

原田：問題として言われていますが、本を読まなくなっただけでネットやスマホで読んでいると思うんです。それは時代の流れなのでいいんじゃないかなと思っています。いきなり本を読めというよりは、とりあえず何でもいいから読んでみて気が向いたら文庫本を買って読んでみる、という感じでそこから発展させていけばいいのではと思います。

藤田：私も原田先生と同じ意見で、インターネットの世界

でも色々な情報が活字で書かれていますから、そういったものを読むことによって活字を読む機会は失われていないと考えています。学生は紙媒体、電子媒体に限らず読む機会があればどんどん読んでいってもらえればという風に考えています。

長福：私は自分で紙の本を手に取り、買い、めくって読む、そして自分の手元に置いておくということを学生に進めたいですね。本は他者との出会いだと思っています。学生のみなさんには、自分の好みや興味、必要性に応じた本だけでなく、それ以外の様々な分野の本も読んで、他者との出会いを楽しんでほしいと思います。

熊谷：本を読むのはなぜか?と問われているところがあり、長福先生が電子媒体よりも紙媒体がいいというご意見に対してお二人はどう感じますか。

原田：電子媒体でもタブレットでもちゃんとページをめくる動作をしないと次のページにいけないというようなものも出ていたりするので、そのページをめくる動作との関連づけの研究をされる方もおられますね。

藤田：そうですね、電子媒体はいろいろ欠点があると思います。紙媒体は本を読んで重要なところにペンで線を引くことができるので、内容としてしっかりとしたものを読むのであれば、紙媒体もなければいけないと感じています。ただ紙媒体の方に対して抵抗をもって活字離れが進むのであれば、電子媒体でもいいので活字を読むという機会が増えればという意味で電子媒体には賛成するような立場で考えています。

学生へのメッセージ。

藤田：やっぱり人から教えられて出来るようになったとかではなく、自分から積極的にチャレンジをして失敗してもいいと思うんです。その失敗が生きてくると思うので、いろいろ挑戦していってほしいと思います。

長福：昔の人の生き方や考え方、ものの見方、感じ方、当時の習慣などを知ることによって今を知ることにつながると私は思っています。そういったことに興味をもって古典を学んでもらえたら、さらに今までよりも視野が広がり、自分を知ることにつながっていくと思います。

原田：そうですね、まずは月一冊本を読んでみよう!というところからはじめてもらえればいいのではと思いますね。今年何冊読んだぞっていうのが分かる、達成感もあっていいのではと思います。

熊谷：今日は皆さんの意見をお伺いすることができて非常に楽しい時間を過ごさせていただいたと思います。今日は本当にありがとうございました。

(平成26年5月22日、図書館2階創造ゼミナール室於)



新任教員座談会の藤田先生



新任教員座談会の原田先生



新任教員座談会の長福先生



座談会で司会をする熊谷図書館長

文化系クラブ活動・同好会の紹介



写真提供：米子高専 放送部

〈合唱部〉

合唱を楽しむ部活動です。新生図書館2階の「アカデミックシアター」にて、毎日放課後に活動しています。コンクールはもちろんのこと、各種式典や地域での文化イベントなど、様々な場面で合唱を披露します。全国に20程度ある高専合唱団の中でも、「合唱“部”」として活動しているのは少数です。文化活動が盛んな本校だからこそこの団体です。

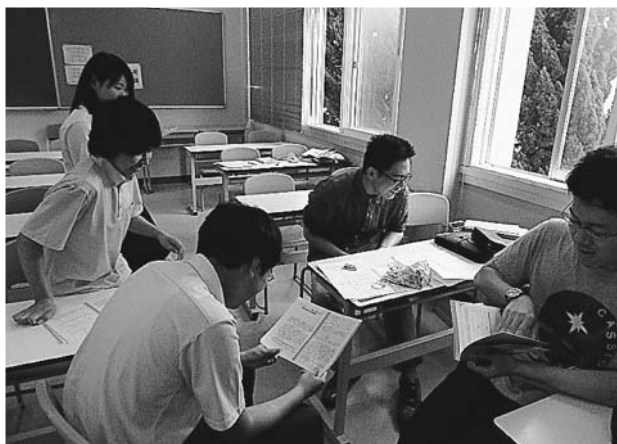
詳細は、「米子高専合唱部」で検索し、TwitterやWebサイトをご覧ください！



〈茶華道部〉

茶華道部は今年度、16人の新入部員を迎え30人で活動しています。部員もグググッと増えて、久しぶりに?ととてもにぎやかです!!!
茶道や華道には堅苦しいイメージもあるかと思いますが、なかなかゆる〜く活動しています。そして、真剣にお稽古している姿はやはりカッコいいものです。興味のある方は、お気軽にお越し下さい。

茶道：白砂会館1研 水、木16:00～
華道：正面玄関 月16:00～



〈数学同好会〉

数学同好会は、週に一回集まって問題を解いています。数学検定の問題であったり、数学コンテストなどの問題です。他には高専間の数学の研究発表会で発表をします。とても個性的な先輩や先生がいます。どんな人間でもこの同好会なら歓迎します。紹介したいことは多いのですが、余白がないのでかけません。ぜひ同好会に来てみて下さい。

活動日時 毎週水曜日 15:30～ 選択教室2
連絡顧問 堀畑まで horihata@yonago-k.ac.jp



〈放送部〉

6月にNHK杯全国高校放送コンテスト7連続全国大会進出が決定しました！昨年は、映画甲子園で全国準優勝もしました。コンテストだけでなく、毎月DARAZ FMにてラジオ番組を制作・放送しています。番組名は「米子高専エンジン×ピープル」。話題のあの人へのインタビューやオリジナルドラマなどなど内容盛りだくさんでお送りする28分間。実は、この番組のことを知らなかったそのあなた！毎月第1日曜日夜10時はDARAZ FM79.8MHzでスタンバイ！
米子高専放送部員E-mail hosobuin.ynct@gmail.com

図書館統計

1.平成25年度学生利用冊数ベスト10

順位	貸出回数	書名	著者
1位	18	Study guide and solutions manual for McMurry and Simanek's fundamentals of organic chemistry / 6th ed.	Susan McMurry.
2位	17	入門クロマトグラフィー / 第2版	Gritter, Bobbitt, Schwarting [著]; 原昭二訳
3位	15	分析化学実験	阿部光雄編著
3位	15	有機反応機構 第5版	Peter Sykes著; 久保田尚志訳
3位	15	知っておきたい有機反応100	日本薬学会編
3位	15	編入数学徹底研究：大学編入試験対策：頻出問題と過去問題の演習	桜井基晴著
7位	14	分析化学実験 / 2版	内海諭 [ほか] 著
7位	14	アトキンス物理化学 / 上	Peter Atkins, Julio de Paula著; 千原秀昭, 中村巨男訳
9位	13	詳解物理学演習 / 下	後藤憲一, 山本邦夫, 神吉健共編
9位	13	ベクトル・行列・行列式徹底演習	林義実著
9位	13	大学編入試験問題数学/徹底演習：微積分・線形代数・応用数学	林義実, 山田敏清共著
9位	13	新TOEIC TEST出る順で学ぶボキャブラリー990	神崎正哉著

2.平成25年度利用状況

区分	学生	教職員	校外者	合計
学生・教職員数	1,057人	122人	11人	1,190人
入館者数	28,407人		257人	28,664人
図書貸出者数	4,016人	347人	58人	4,421人
図書貸出冊数	7,997冊	2,185冊	155冊	10,337冊

3.NDC分類別貸出冊数・貸出率

分類	貸出冊数	順位	分類	貸出率(%)
0 総記	364	1位	5 技術	40.2%
1 哲学	138	2位	4 自然科学	32.8%
2 歴史	132	3位	9 文学	11.6%
3 社会科学	244	4位	8 言語	5.1%
4 自然科学	3,386	5位	0 総記	3.5%
5 技術	4,157	6位	3 社会科学	2.4%
6 産業	19	7位	7 芸術	1.6%
7 芸術	171	8位	1 哲学	1.3%
8 言語	524	9位	2 歴史	1.3%
9 文学	1,202	10位	6 産業	0.2%
合計	10,337	合計		100.0%

